

『ひろがる言葉 小学国語 六上』年間指導計画・評価計画（案）

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（1）・言語活動例（2）〉	時	学習活動	評価規準
4	—	六年生で学ぶこと				
4	—	言葉で伝え合おう	—	—		
4	2 （話す聞 く2）	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1・2	○クラスの人々に聞いてみたい質問を出し合い、考えを交流するという学習の見通しをもつ。 1．みんなへの質問をカードに書く。 ・教科書の例を参考にしながら、質問を考える。 2．カードを引いて、質問を決める。 3．質問にどう答えるか、考える。 ・自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。 4．グループで発表する。 5．感想を伝え合う。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
4	1	風景 純銀もざいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	3	1.『風景 純銀もざいく』を音読する。 (1) 1連・2連・3連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 (2) 音読して気づいたことや気になったことを挙げ、交流する。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。（〔知識及び技能〕(1)ケ） ◎【思判表】人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
	2	あの坂をのぼれば	□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	4 5	○学習の見通しをもつ 確かめよう 1．全文を音読し、言葉の意味を考えたり、確認したりする。 考えよう・深めよう 2．登場人物の心情が分かるところを見つけ、心の動きを想像しながら声に出して読む。 (1) 登場人物の心情が分かるところを見つける。 (2) 登場人物の心の動きを想像しながら声に出して読む。 広げよう 3．すてきだと思う情景について、感想を話し合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5	11 (書く 6)	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。			
5	3 (書く 1)	春はあけぼの	△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。⇒◎知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。⇒知技(3)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒◎思判表C(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみをもち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。	1	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 1. p. 22 を読み、教材の概略をつかむ。 2. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。 3. 各「季節」の情景をイメージする。	◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ）
				2・3	4. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。 5. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。	【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3	薫風 「迷う」	□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：随筆の読みをとおして、真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようとする。	4	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 二つの随筆を読んで、筆者が取り上げているものや、どのような思い出、事例を挙げているのか確かめる。 (1) 「薫風」のもともとの意味を確かめ、それに対して筆者（黛さん）はどのようなものを「薫風」の例に挙げているのか考える。 (2) それぞれの「薫風」に対する筆者（黛さん）の思い出を、ノートにまとめる。 (3) 「迷う」「迷わない」の事例や、事例に対する筆者（日高さん）の考えを表にまとめ、それぞれの事例や筆者の考えについて話し合う。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ）
				5	考えよう 2. 二つの随筆を比べ、話し合う。 (1) 二つの随筆を比べ、①取り上げている具体例は何か（何を通して）。②個性的な表現はどうか。③筆者独自のものの見方・考え方は何か。について話し合う。 (2) 「薫風」に、黛さん独自の意味を加えたことで、どのような効果があったのか話し合う。 (3) 「迷う」ことに対して、日高さんがどのように考えているについて話し合う。	【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、今までの学習を生かして、者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しもうとしている。
				6	深めよう 3. それぞれの随筆に対する感想をノートにメモして、紹介しあう。 ○学習をふり返ろう	
5	5 (書く5)	随筆を書こう	■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知・技能(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。	7	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。
				8	決めよう・集めよう（重点） 1. 書く事柄を決める。 ・仮のテーマ「風」について、どのような経験があるか考える。	
				9・10	組み立てよう（重点） 2. 体験や事例を書き出し、自分の考えをまとめる。 書こう・読み返そう 3・4. 読み返しながらかく。	
				11	伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 2. p.46の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 3. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。 4. 切れ目に「／」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。 5. 略語と、略す前の熟語とを比べる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると同時に、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(【知識及び技能】(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心をもち調べようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	5 (書く 2)	三 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	□■雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめる。			
	5 (書く 2)	雪は新しいエネルギー	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に對する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 →知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 →◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 →◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 →思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 →思判表C(2)ア	1・2	○環境に関わる言葉を巡って話し合い、学習の見通しを持つ。 確かめよう 1. (1) 「地球温暖化」や「異常気象」「再生可能エネルギー」などの言葉について、知っていることを話し合う。 (2) p.52⑥段落までを読んで、「雪はエネルギー」とはどのようなことか説明する。さらに、雪がエネルギーだとすると、どのように利用できるか、⑤段落の事例をヒントに話し合う。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(【知識及び技能】(2)イ)
				3	考えよう	◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりして、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ)
				4	深めよう	◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(【思考力、判断力、表現力等】Cア)
				5	広げよう	◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(【思考力、判断力、表現力等】Cウ)
					○学習をふり返る。	【態度】積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。
5	2	主語と述語の対応をみる	△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →◎知技(1)カ	1	○冒頭の会話文を通して、文を見直す際に主語と述語の対応を確認することが大事だということを知る。 1. 教科書の例文を読み、どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(【知識及び技能】(1)カ)
				2	2. ねじれ文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 3. 作文を書くときに、主語と述語の対応をよく確認しているかふり返る。 ○学習したことをふり返る。	【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	10 (話す聞く6, 書く4)	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇■立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。			
6	6 (話す聞く6)	地域の防災について話し合おう	◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 →知技(1)キ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 →思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 →思判表A(1)ウ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 →思判表A(2)ウ ☆特別活動・総合的な学習の時間など：問題意識や互いの立場・主張を明確にしながら、計画的に話し合う。	1 2 3 4 5 6	○単元名やリード文を読み、お互いの意見を尊重し合いながら話し合うことについて考え、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 立場を決め、くわしく調べる。 (1) 教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。 (2) 自分たちが設定したテーマを設定する。 組み立てよう 2. 資料をもとに主張を組み立てる。 (3) 自分たちが設定したテーマにそって準備をし、パネルディスカッションを行う。 *テーマに対する観点とグループのメンバーを決める。 *グループで情報を調べたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめる。 話そう・聞こう(重点) 3. パネルディスカッションを行う。 *司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 (4) 2 回目・3 回目を行う。 伝え合おう 4. 感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】粘り強く意見の違いを大事にしながら話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。
6	4 (書く4)	パンフレットで知らせよう	■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 →知技(1)イ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →知技(1)カ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 →◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 →◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 →◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 →思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：事物を紹介する活動でも活用できる。	1 2 3・4	○教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 違う立場の人どうしでグループになり、知らせたい内容を話し合う。 組み立てよう(重点) 2. 書く分担を決め、構成を考える。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. パンフレットを作り、読み返す。 伝え合おう 5. パンフレットを読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「象」という漢字の意味を考える。 2. p.80下段を読み、「象」という漢字には、もとの意味と、派生した意味をあわせもっていることを知る。 3. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。 4. p.81下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1	詩を味わおう イナゴ	□言葉の広がりを楽しむながら、詩の世界を楽しむ。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1	1. 一連と二連の「イナゴ」と「ぼく」の様子をもとに、詩の世界をイメージする。 2. 三連について考えたことを話し合う。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) 【態度】積極的に言葉の広がりを楽しむ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。
9	1 (書く 1)	「知恵の言葉」を集めよう	△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1	1 暮らしの中に、ものの名前や物事の手順を唱える言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲を持つ。 2 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。 3 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	5 (書く 5)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。			
		物語を作ろう	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ	1 2 3・4 5	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 写真の中から登場人物を決め、人物設定をする。 (1) 写真を見て想像を広げる。 (2) 登場人物を選び、人物設定を「人物カード」に書く。 組み立てよう(重点) 2. 物語を組み立てる。 (1) 物語の大まかな展開を考える。 (2) グループで話し合い、読者の視点も加えて構成を考える。 (3) あらすじを書く。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. 物語を作り、読み返す。 伝え合おう 5. 友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
	3 (話す聞く1)	会話を広げる	△ 相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめること。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。 ⇒思判表A(2)ウ	1 2 3	○相手とのつながりを作る言葉のはたらきについて学習することを理解し、学習の見通しをもつ。 1. 会話をするときに話のきっかけとなる話題を作ることを意識し、相手のことを考えて言葉を選ぶことの大切さを考える。 2. 言葉の内容だけでなく、言い方にも工夫が必要であることを考える。 3. 電話で相手が見えない場合の円滑なコミュニケーションはどうすればいいのか考える。 4. 同じ音である「うん。」でも込められる気持ちや言葉のはたらきが違うことを考える。 5. 相手が話すことを促すための工夫を考え、話し合う。 6. 会話の中でコミュニケーションを上手にとるための、話すときと聞くときの工夫を考え話し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 2. 「経験」と「体験」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 3. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。 4. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 5. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 6. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っていると、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	2		◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。